

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3244076号
(U3244076)

(45)発行日 令和5年10月10日(2023.10.10)

(24)登録日 令和5年9月29日(2023.9.29)

(51)国際特許分類
A 4 7 K 11/10 (2006.01)

F I
A 4 7 K 11/10

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全8頁)

(21)出願番号	実願2023-2853(U2023-2853)	(73)実用新案権者	506352913
(22)出願日	令和5年8月7日(2023.8.7)		カネヨシ商事株式会社
			京都府京都市山科区西野山百々町40番地3
		(74)代理人	110001885
			弁理士法人IPRコンサルタント
		(72)考案者	谷田 光雄
			京都府京都市山科区西野山百々町40番地3 カネヨシ商事株式会社内

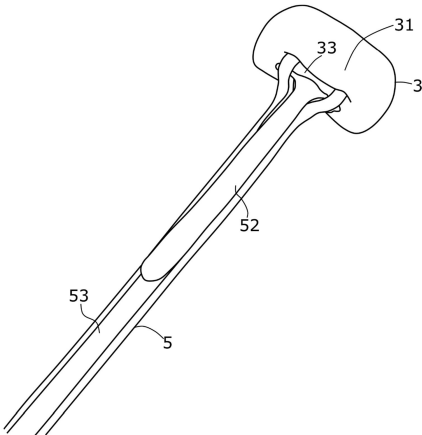
(54)【考案の名称】 トイレ用ブラシ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 便器の汚れを簡単かつ効率的に落とし、ごみ削減に貢献することができるとともに、安全に作業できるトイレ用ブラシを提供する。

【解決手段】 略直方体をなし、第1面31に所定深さの切れ込み33を有する、多孔質性の柔軟なヘッド3と、切れ込みに着脱自在に挿入される取付部を有する柄5と、を具備することを特徴とするトイレ用ブラシとする。

【選択図】 図7



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

略直方体をなし、第 1 面に所定深さの切れ込みを有する、多孔質性の柔軟なヘッドと、前記切れ込みに着脱自在に挿入される取付部を有する柄と、を具備することを特徴とするトイレ用ブラシ。

【請求項 2】

前記ヘッドにおいて前記第 1 面に対向する第 2 面が、前記第 1 面に対して所定角度だけ傾斜していること、を特徴とする請求項 1 に記載のトイレ用ブラシ。

【請求項 3】

前記所定角度が 30°～60°であること、を特徴とする請求項 2 に記載のトイレ用ブラシ。

【請求項 4】

前記取付部が、前記切れ込みの幅と略同一の幅を持つ枠体又は板体であること、を特徴とする請求項 1 に記載のトイレ用ブラシ。

【請求項 5】

前記取付部が、前記切れ込みを構成する内面に向かって突出する突起を有すること、を特徴とする請求項 4 に記載のトイレ用ブラシ。

【請求項 6】

前記柄が、前記切れ込みに挿入された前記ヘッドを前記取付部との間で挟み込む保持部を有すること、を特徴とする請求項 1 に記載のトイレ用ブラシ。

【請求項 7】

略直方体をなし、第 1 面に所定深さの切れ込みを有する、多孔質性の柔軟なヘッド 3 種類と、前記切れ込みに着脱自在に挿入される取付部を有する柄と、を具備することを特徴とするトイレ用ブラシセット。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、トイレ用ブラシに関する。

【背景技術】**【0002】**

便器の汚れを落とすためにトイレ用ブラシが用いられる。一般的なトイレ用ブラシは柄部とその先端に固定されたブラシ部とを有する（例えば特許文献 1：特許第 4 1 7 7 4 4 4 号公報）。

【0003】

例えば尿石その他の溜まった汚れに対しては、便器に酸性クリーナーをふりかけ、ブラシでこすり落とすのが一般的である。しかし、ブラシにより酸性液が飛び跳ねるなど、危険を伴う可能性がある。

また、便器の縁の汚れに対応したブラシが種々提案されているが、狭い縁に堆積した汚れには適切に対応できないことが多く、また、視認しにくい部分に均一にブラシを当てることは容易でない。

あるいは、スプレーでクリーナーを吹き付けて汚れを落とす方法もあるが、薬液を汚れにまんべんなく吹き付けることが難しく、無駄が多い。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特許第 4 1 7 7 4 4 4 号公報

【考案の概要】

10

20

30

40

50

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

そこで、本考案は、便器の汚れを簡単かつ効率的に落とし、ごみ削減に貢献することができるとともに、安全に作業でき、かつ用いる洗浄剤の種類によって簡易に交換できるヘッドを具備するトイレ用ブラシを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上述した課題を解決すべく、本考案は、略直方体をなし、所定の第1面に所定深さの切れ込みを有する、多孔質性の柔軟なヘッドと、

前記切れ込みに着脱自在に挿入される取付部を有する柄と、を具備することを特徴とするトイレ用ブラシ、を提供する。

【0007】

本考案のトイレ用ブラシでは、前記ヘッドにおいて前記第1面に対向する第2面が、前記第1面に対して所定角度だけ傾斜していること、が好ましい。

【0008】

また、本考案のトイレ用ブラシでは、前記所定角度が $95^{\circ} \sim 120^{\circ}$ であること、が好ましい。

【0009】

また、本考案のトイレ用ブラシでは、前記取付部が、前記切れ込みの幅と略同一の幅を持つ枠体又は板体であること、が好ましい。

【0010】

また、本考案のトイレ用ブラシでは、前記取付部が、前記切れ込みを構成する内面に向かって突出する突起を有すること、が好ましい。この突起は、前記取付部の基端側に傾斜していること、が好ましい。

【0011】

また、本考案のトイレ用ブラシでは、前記柄が、前記切れ込みに挿入された前記ヘッドを前記取付部との間で挟み込む保持部を有すること、が好ましい。

【0012】

更に、本考案は、略直方体をなし、所定の第1面に所定深さの切れ込みを有する、多孔質性の柔軟なヘッド3種類と、

前記切れ込みに着脱自在に挿入される取付部を有する柄と、を具備することを特徴とするトイレ用ブラシセット、も提供する。

かかるトイレ用ブラシセットによれば、例えば中性、酸性及びアルカリ性の洗浄剤を用いる場合に、用いる洗浄剤の種類によってヘッドを簡易に交換することができ、作業を安全に実施することができる。

【考案の効果】

【0013】

本考案によれば、便器の汚れを簡単かつ効率的に落とし、ごみ削減に貢献することができるとともに、安全に作業でき、かつ用いる洗浄剤の種類によって簡易に交換できるヘッドを具備するトイレ用ブラシを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本実施形態に係るトイレ用ブラシ1の概略図である。

【図2】トイレ用ブラシ1の正面側及び背面側斜視図である。

【図3】トイレ用ブラシ1の正面図、背面図、右側面図、上面図及び底面図である。

【図4】柄5の取付部51の概略図である。

【図5】ヘッド3が取付部51の先端に差し入れられた状態を示す図である。

【図6】ヘッド3が取付部51に差し込まれた状態を示す図である。

10

20

30

40

50

【図 7】ヘッド 3 が取付部 5 1 に固定された状態を示す図である。

【図 8】トイレ用ブラシ 1 で便器 7 を清掃する様子の一例を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【0015】

以下、本考案に係るトイレ用ブラシの代表的な実施形態について、図面を参照しつつ詳細に説明する。なお、本考案はこれら図面に限定されるものではない。また、図面は、本考案を概念的に説明するためのものであるから、理解容易のために、必要に応じて寸法、比又は数を誇張又は簡略化して表している場合もある。

【0016】

図 7 に例示するように、トイレ用ブラシ 1 は便器 7 の清掃に用いられ、特に便器 7 の縁部の洗浄に好適に用いられる。

図 1 に示すように、トイレ用ブラシ 1 は、ヘッド 3 及び柄 5 を有する。以下、各構成要素を詳細に説明する。

【0017】

図 4 ～図 7 に示すように、ヘッド 3 は、柄 5 に着脱自在に装着されるスポンジ状の柔軟な多孔質部材である。図 2 及び図 3 に示すように、ヘッド 3 は、第 1 面～第 6 面を有する略直方体状をなす。ヘッド 3 は例えばポリウレタンなどの樹脂材料の発泡体から構成されるが、他の材料で作製されてもよい。

【0018】

ヘッド 3 は、ある面（第 1 面 3 1）に所定深さの切れ込み 3 3 ないし溝を有する。切れ込み 3 3 は、柄 5 の取付部 5 1 を受け入れるために設けられる。

切れ込み 3 3 の深さは、柄 5 の取付部 5 1 の長さと同様であり、例えば 5 cm ～ 10 cm（7 cm ～ 8 cm）である。切れ込み 3 3 の幅は、取付部 5 1 の幅と同様かやや広く、例えば 2 cm ～ 5 cm である。

【0019】

例えば図 2 に示すように、切れ込み 3 3 が設けられた第 1 面 3 1 とは反対側の又は対向する面（第 2 面 3 2）は、一部が第 1 面 3 1 に対して傾斜している。図 3（C）に示す傾斜の角度 α は例えば $30^\circ \sim 60^\circ$ である。

第 2 面 3 2 は、例えば、第 1 面 3 1 に略平行であった面を削ることで形成される。これにより、第 2 面 3 2 側の先端は、鋭角の部分と鈍角の部分とを有することになり（例えば図 2（A），（B）参照）、便器の様々な部位の形状への追従性が向上する。

【0020】

ヘッド 3 の角部（略直方体の頂点及び辺に相当する部分）は概ね丸みを帯びている。丸みは例えば角部を削ることで形成される。

本実施形態では、正面側の角部は、背面側の角部よりも大きな（つまり曲率半径の大きい）丸みを有する（例えば図 3（D），（E）参照）。これにより、ヘッド 3 は便器 7 の縁への追従性（縁の奥へ十分に入り込むこと）を備えるのである。

【0021】

それゆえ、便器 7 の縁にヘッド 3 を差し入れたときに、ヘッド 3 は便器 7 の縁にフィットし、狭い縁にも容易に届く（図 7 参照）。

【0022】

ヘッド 3 は 1 本の柄 5 に対して 1 個でもよいし、複数個セットで提供されてもよい（図 1 参照）。

後者の場合、個々のヘッド 3 が異なる色で着色されてもよい。例えば、使用する洗剤の性質（例えば中性、塩素系、及びアルカリ性の洗剤）に応じて別のヘッド 3 を使用することで、一貫したヘッド 3 の使用が可能となり、また、ヘッド 3 における洗剤の混ざりを防止することができる。

【0023】

次いで、柄 5 について説明する。

柄 5 は棒体をなす。柄 5 は、例えばポリプロピレン、ABS 樹脂、ポリエチレンなどの

10

20

30

40

50

樹脂材料により作製されてもよいし、木材や金属などの他の材料で作製されてもよい。

【0024】

柄5は、その先端に、ヘッド3を装着するための取付部51を有する。つまり、柄5は先端の近傍において屈曲して取付部51を形成する。取付部51は、略U字状、略環状又は略矩形状をなす枠体又は板体であり、ヘッド3の切れ込み33に差し込まれる。

なお、柄5における屈曲部位は、後述する保持部52の軸部522を受ける軸受け512としての役割をも果たす（図5参照）。

【0025】

取付部51は、切れ込み33への挿入時に切れ込み33を構成する内面33A、33Bに向かって突出する突起511を有する（例えば図3（F）及び図4参照）。突起511は、ヘッド3が取付部51の先端側へ（つまり取付部51から外れる方向に）移動しようとするとき切れ込み33の内面33A、33Bに食い込んで、ヘッド3の更なる移動又は取付部51からの脱落を規制する規制手段である。本実施形態において、突起511は、切れ込み33を構成する内面33A、33Bのうち一方の面に向かって向かっているが、突起511は両方の面に向かって突出してもよい。

突起511は、取付部51の基端側に傾斜している。突起511が取付部51となす、図4（B）に示す角度 β は概ね $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ であることが好適である。

【0026】

柄5は、装着されたヘッド3を取付部51との間で挟み込む保持部52を有してもよい（図6参照）。

保持部52は棒状であり、先端の近傍において屈曲して押圧部521を形成している。保持部52の屈曲は、柄5の屈曲と概ね同程度でよい。

押圧部521の先端からは、ヘッド3に向かって突出する突起523を有する。突起523は、取付部51に装着されたヘッド3の表面に食い込んで、ヘッド3の移動を規制する。

【0027】

保持部52の屈曲部位からは軸部522が突出している（図5参照）。軸部522は柄5の軸受け512で受けられ、これにより保持部52は柄5に対して回転することができ、したがって、保持部52を柄5に対して回転させることで、ヘッド3を取付部51上に保持したり、あるいは保持を解除したりすることができる（図6参照）。

【0028】

柄5は、保持部52を収納するための凹部53ないし収納空間を有してもよい（図7参照）。

凹部53は、柄5に沿って設けられている。保持部52を柄5に対して回転させて、凹部53に保持部52を収納すると、同時に、押圧部521が取付部51との間にヘッド3を挟持する。したがって、保持部52が凹部53に収納されて柄5と保持部52とが一体化した状態では、ヘッド3が取付部51に固定されることとなる。

【0029】

次いで、トイレ用ブラシ1の使用手順を説明する。

ヘッド3及び柄5を準備する。このとき、色違いの複数のヘッド3を準備してもよい。

【0030】

ヘッド3の切れ込み33に柄5の取付部51を差し込んで、取付部51にヘッド3を装着する（図5参照）。このとき、使用する洗剤に応じてヘッド3を選択あるいは交換してもよい。

また、保持部52の回転操作により、保持部52の押圧部521と取付部51との間でヘッド3を挟持する（図6参照）。

それによりヘッド3が柄5に固定され、トイレ用ブラシ1の準備が整う（図7参照）。

【0031】

次いで、トイレ用ブラシ1で便器7を掃除する。

まず、ヘッド3に洗剤を吹き付け、かけ、塗り付ける。つまり、洗剤を便器7にかける

10

20

30

40

50

のではなく、ヘッド 3 につけることで、洗剤の飛び散りなどの無駄を抑制することができる。

【0032】

そして、トイレ用ブラシ 1 で便器 7 を擦る。このとき、ヘッド 3 の尖った先端が便器 7 の縁に入り込むので、便器 7 を隅々まできれいにすることができる（図 8 参照）。

なお、別の種類の洗剤で便器 7 を更に掃除する場合には、装着中のヘッド 3 を柄 5 から取り外し、別のヘッド 3 を装着する。あるいは、使用中のヘッド 3 が傷んだ場合には、ヘッド 3 だけを交換することができる。

【0033】

本実施形態によれば、1 つのトイレ用ブラシ 1 で、あらゆる便器 7 に対応可能である。すなわち、ヘッド 3 に洗剤（液又は泡）をつけ、ヘッド 3 で洗剤を便器 7 の汚れに塗り付け、汚れを落とすことで、洗剤の飛び散りや垂れを抑制することができ、洗剤の無駄がない。

【0034】

また、ヘッド 3 は取り替え式であるから、ごみの削減が可能である。また、ヘッド 3 が交換式で、ごみの減量化に貢献できる。これに対して、既存のトイレブラシは柄 5 付きの一体物で、汚れたら全て廃棄しなければならず、柄の部分が長く処分に困る。

【0035】

更に、異なる種類の洗剤に対して異なる色のヘッド 3 を使い分けることで、掃除の安全性が高まる。例えば、白、黒及び赤の 3 色のヘッド 3 を、それぞれアルカリ性、中性及び酸性の洗剤のために使用するなど、洗剤とのマッチングにより使い分けができる。この使い分けにより安全性の問題、つまり酸性洗剤とアルカリ性洗剤の混ぜるといった危険な行為を避けることができる。また、ヘッド 3 を視覚的に判別できて、洗剤の混合による塩素ガスの発生をより安全に防ぐことができる。

【0036】

以上、本考案の一実施形態であるトイレ用ブラシについて説明したが、本考案はこれらにのみ限定されるものではなく、本考案の技術的思想を具備する限りは種々の設計変更が可能であり、かかる設計変更態様は全て本考案の技術的範囲に含まれる。

【符号の説明】

【0037】

- 1 トイレ用ブラシ
- 3 ヘッド
- 3 1 第 1 面
- 3 2 第 2 面
- 3 3 切れ込み
- 5 柄
- 5 1 取付部
- 5 1 1 突起
- 5 1 2 軸受け
- 5 2 保持部
- 5 2 1 押圧部
- 5 2 2 軸部
- 5 2 3 突起
- 5 3 凹部
- 7 便器

10

20

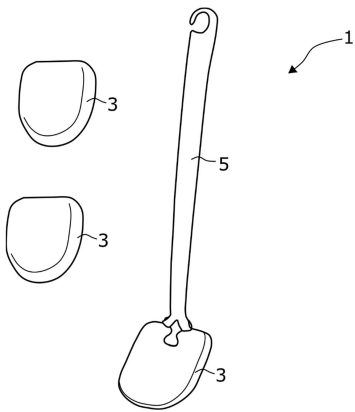
30

40

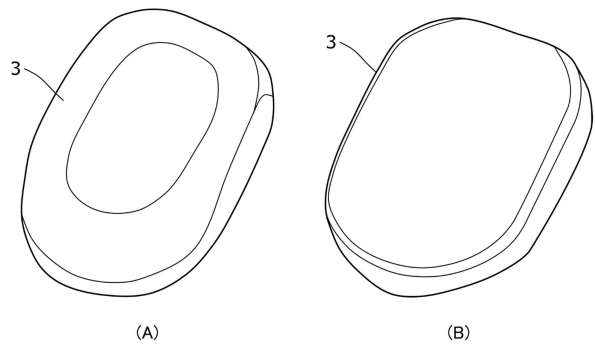
50

【図面】

【図 1】

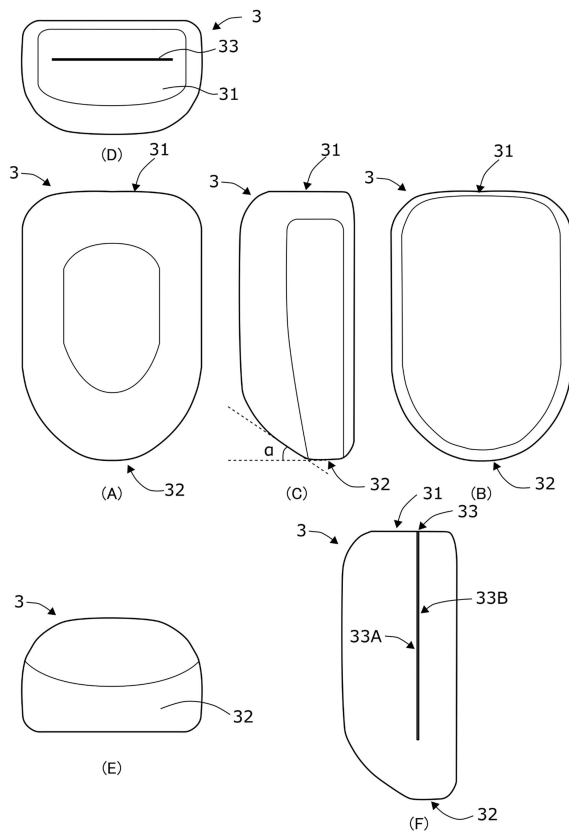


【図 2】

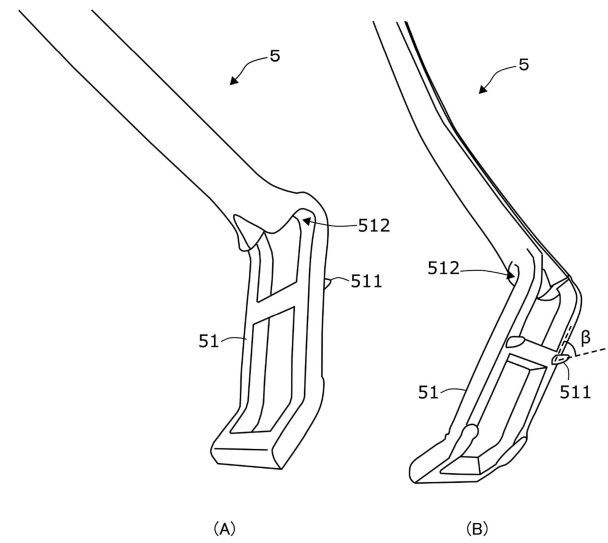


10

【図 3】



【図 4】



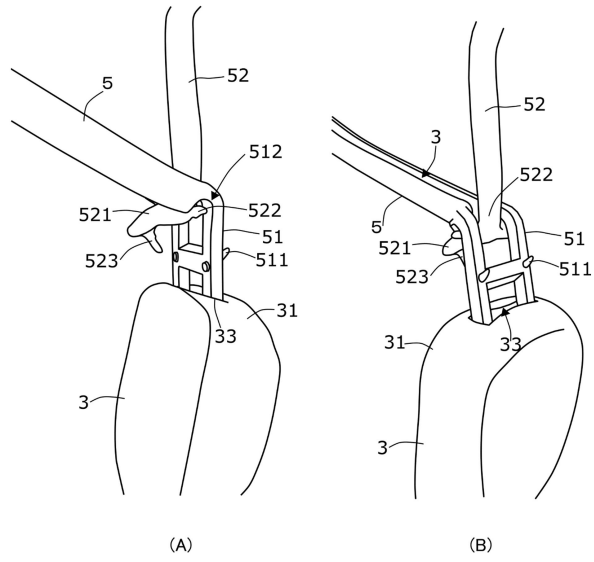
20

30

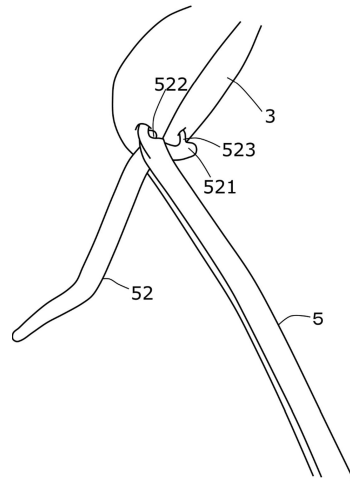
40

50

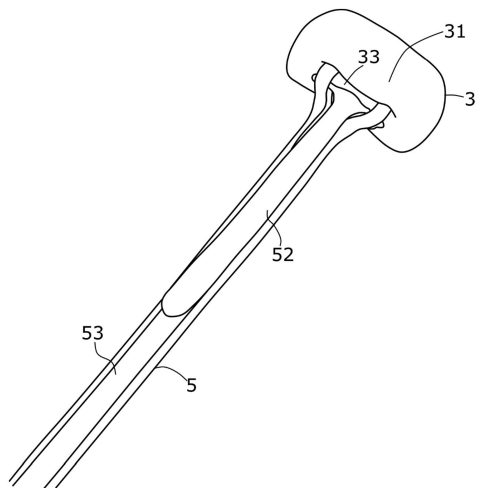
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

